

## 第 117 回・日商簿記検定試験 3 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	現金過不足	当座預金	受取手形
売掛金	従業員立替金	貸付金	仮払金
支払手形	買掛金	貸倒引当金	所得税預り金
未払金	借入金	仮受金	引出金
売上	雑益	貸倒引当金戻入	償却債権取立益
仕入	貸倒引当金繰入	貸倒損失	給料
租税公課	水道光熱費	旅費交通費	雑損

1. 決算に当たり、現金の手許有高を調べたところ、帳簿残高は 300,000 円であるのに対して、実際有高は 280,000 円であった。この現金過不足額のうち 8,000 円は、従業員個人が負担すべき交通費を店の現金で肩代わりして支払った取引が未記帳であったためであることが判明したが、残りの現金不足額の原因は不明である。
2. 商品 150,000 円を仕入れ、代金のうち 120,000 円については、売掛金のある得意先を名宛人とする為替手形を振り出し、得意先の引き受けを得て渡し、残額は掛けとした。
3. 前期に貸倒れとして処理した売掛金 100,000 円のうち、80,000 円が回収され、当座預金の口座に振り込まれた。なお、貸倒引当金勘定の残高は 60,000 円である。**(※注意：第 128 回試験より、償却債権取立益に関する問題は 1 級の出題範囲になりましたので、本問は参考程度にご覧ください。)**
4. 給料日に、従業員に対する給料から所得税の源泉徴収額 30,000 円を差し引き、手取り金 170,000 円を当座預金の口座から振り替えて従業員に支払った。
5. 水道光熱費 60,000 円と事業主の所得税 240,000 円を当座預金の口座から振り替えて支払った。なお、水道光熱費のうち 20,000 円は、事業主個人の家計が負担すべき金額である。